

82年度
第2期 7月~9月
テーマ『仲間意識』

7月は
仲間意識について
考える

夜間学校ニュース

発行

釜ヶ崎夜間学校
西成区萩茶屋二八十八
喜望の家気付
でんわ 六四七-三九四六
(木よう日7じり9じ)

仲間意識の獲得の為に 共に智恵をしぼろう!

今晚7じより喜望の家集會室にて

今日は、仕事仲間について考えてみようというところから始めたが、今一つピンとこないと言うことで、先週からもう少し広い意味での「仲間」や「仲間意識」について皆で考えてきた。わしらは一人一人が「仲間意識」を感じられないとしても、世間一般から見れば「あいつらは釜ヶ崎の日雇や」と一くりにされる。また、わしらは等しく、釜ヶ崎で日雇を長く続けたいは、やがては「行旅病死」が約束されている。一方で、日雇あたかもわしらを犯罪者でもあるかのように扱うホリ公どもには皆等しく好ましくない感情を持っている。これは、「手配師」や「人夫出し」に対してとも言えることで、誰かが飯場でなぐられたことがわかれば、仲間の「必す糾弾」

釜ヶ崎で日雇を長く続けたいは、やがては「行旅病死」が約束されている。

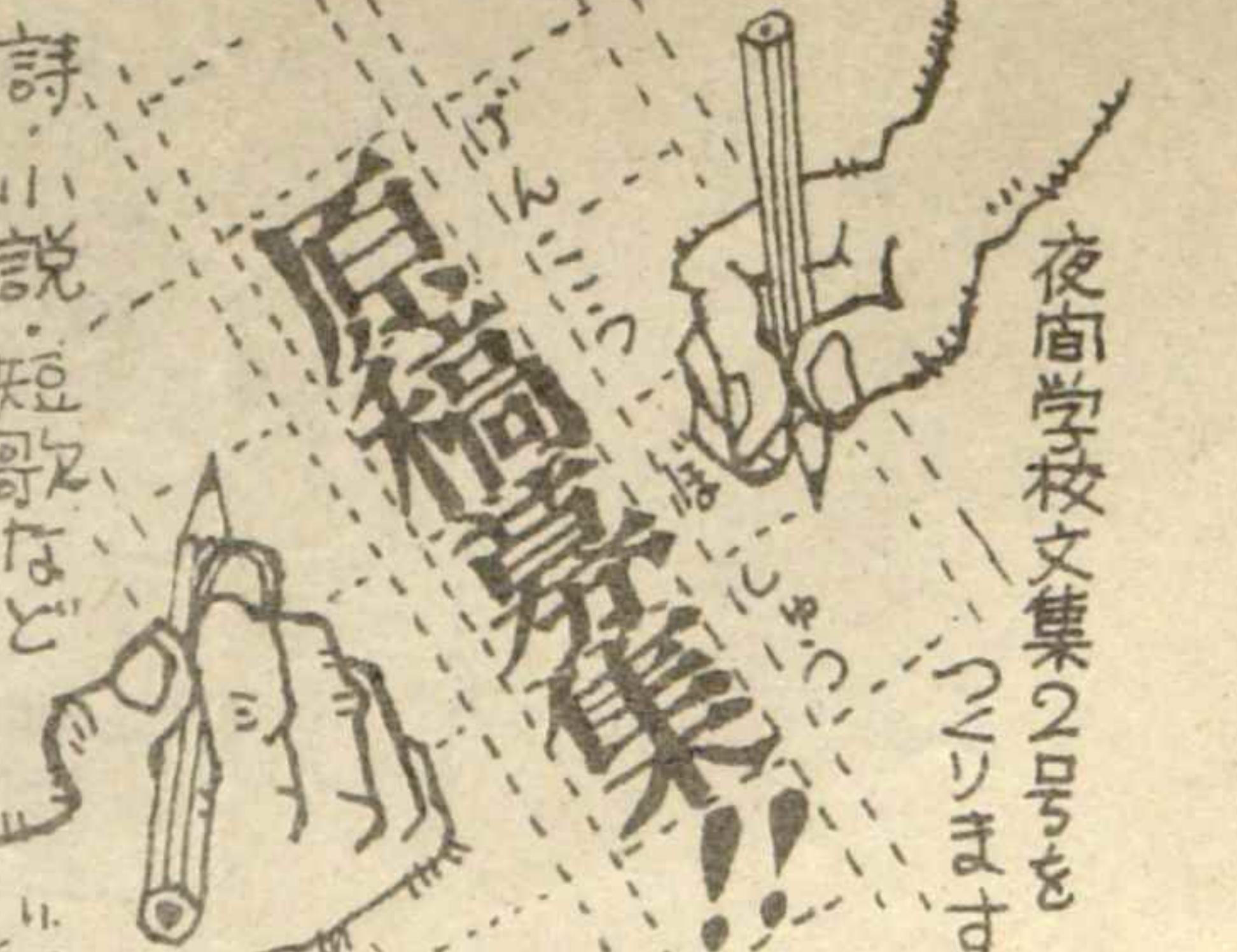
一方で、日雇あたかもわしらを犯罪者でもあるかのように扱うホリ公どもには皆等しく好ましくない感情を持っている。これは、「手配師」や「人夫出し」に対してとも言えることで、誰かが飯場でなぐられたことがわかれば、仲間の「必す糾弾」

争に参加するが、これなどは立派な「仲間意識」のあらわれだ。最近、マスコミなどでも騒いでいるように、仕事の回復に見切りをつけた一部の「仲間」は、クルーをやってテントも張り、ちがった形での「青春」をはじめている。



わしらに今必要なのは、このように共通に与えられた不利な条件をバネに、

具体的に獲得目標を設定し、一致して行動するためには何を、どうすればよいかと言うことについて智恵をしぼることではないだろ



夜間学校文集2月号を つくりまします。

詩・小説・短歌など なんでもつけようです。

× 切り 7月31日まで

届け先 喜望の家、又は 喫サ余史まで

しんじまみや	センター	釜ヶ崎	解放会館
南海本線	萩小	喫茶店	770115
北	喜望の家		

第二期 三回報告 役割分担で青カン生活維持

しかし、その破綻の原因は!?

7月に入ってから、「仕事仲間」について話し合ってきました。「仲間」とは、たとえ意識していなくても日雇いをしているということ、共通の基盤があるのではないのでしょうか。

「ワシは生まれは高知県だけど、仲間という言葉はあんまり使わんな。受け取りの仕事をやリ、利益が平等の時に、仲間という言葉を使うな。普通はワシレとて」と丁さんから意見がありました。

「ワシレ」というのは、一緒に使われる時に言う言葉で、「仲間」というのは対等の関係で、一種の利益集団を示す言葉か。「アングの共通の基盤」と言え

「は、資本家がいらない、ということと違うか。」

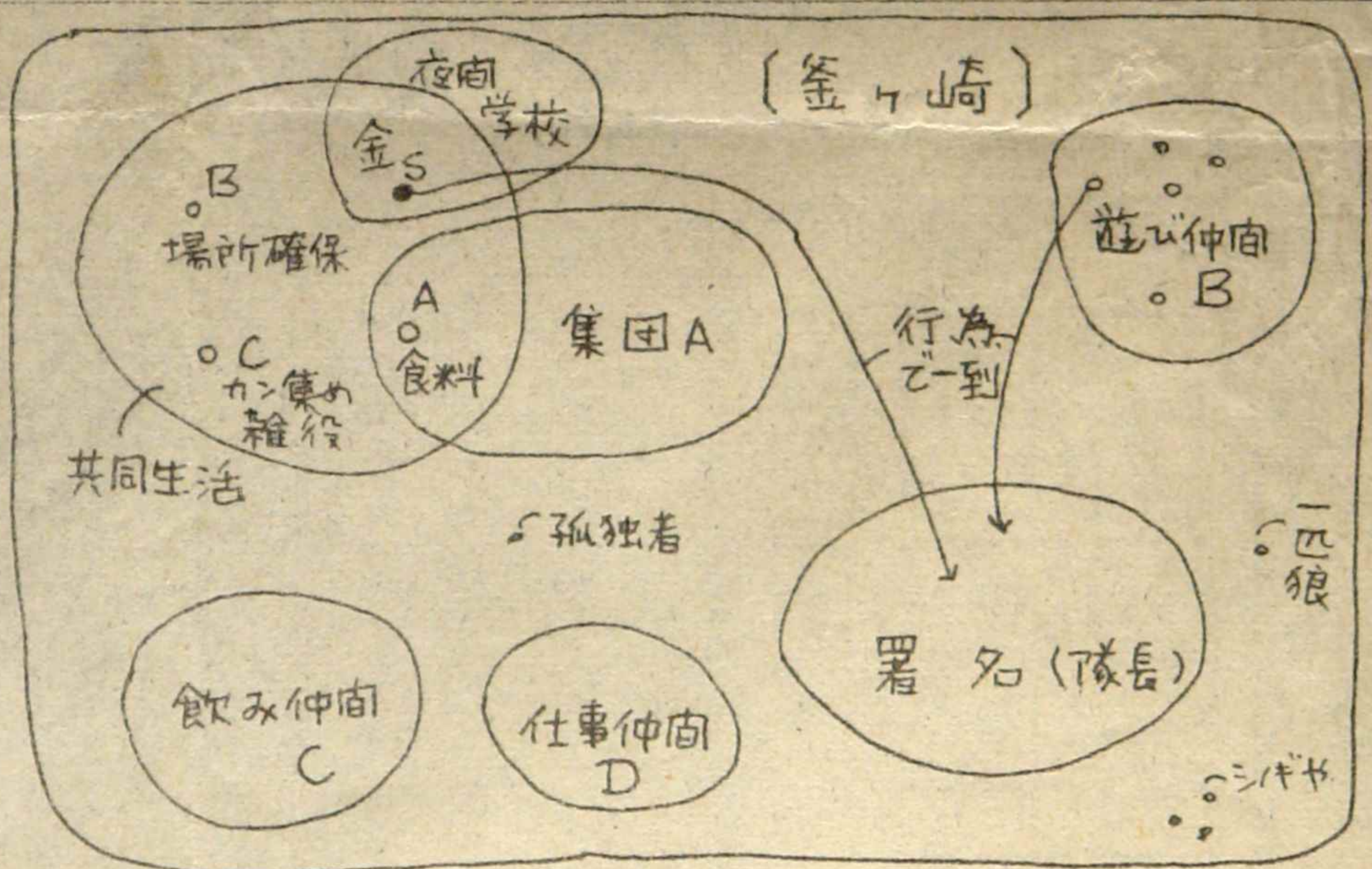
「という話しをしている時に、Sさんが、息せききって入ってきた。そして次のことを話した。

「今、友だちと別れてきた。俺は、2週間前から、天王寺公園で仲間4人、一緒に生活をしている。一人一人役割分担があつて俺は労災で毎日現金3千円が入るからそれを出して、Aは食糧集め、Bは場所の確保をし、Cはカン集め、雑役の仕事をしている。しかし、そのうち現金が全く入らなくなる。そこで、みんながバタヤをやる」と提案したんや。みんな賛成だったところからそこで問題が起こった

んや。今日、俺はセンターで隊長がパワられたから署名運動をした。一緒に生活している仲間にも署名を頼んだ。なのに、Aはある集団に入つていて、その集団に相談しないと個人ではできないと言はんや。Aに俺らのつきあいに比重を置くか、その集団に比重を置くかどつちやとどなつて、今、別れてきた。

ある労組の人は、組合ではやれないけれども個人的にはやりましょう、と言つてくれた。ところがあいつときたら……

Sさんの問題は、共同生活をしている4人だけのことでなく、釜ヶ崎に住み、就労する人たちがつづつていている仕事仲間や遊び仲間、飲み仲間、あるいは労組などのグループや集団の絡み合いを象徴的に表わしています。それを図にすると、



Sさんの場合、共同生活を維持することを優先的に考えるのか、あらゆる行動・考え方の一にまとめるのが葛藤が起つています。一つの目的を追求するために各々の関係をどのようにつくつていけばいいのかをみんなが話し合うことが、「仲間」について考えることにつながると思われます。